

台湾電力日月潭と大觀發電所竣工80周年記念大会記事

台湾電力会社は日月潭と大觀發電所（元日月潭第一発電所）の竣工80周年を記念し、祝賀と共に建設工事の犠牲者の慰霊の目的で去る7月29日大觀發電廠全力を挙げての主催の下に記念大会を挙行した。大会は当日10時から大觀發電廠の正門前に仮設された広大な式場にて盛大に挙行され、吳副大統領の臨席を厚くいたした外、台電の会長、社長、副社長及び部長クラスと大觀等発電所長等歴々の高級幹部が出席した外、外部からは日本の鹿島建設会社副社長や支店長と地方の長官、議員等数十名が賓客として列席せられた。迎賓の陣太鼓、獅子舞、舞踏、合唱等の演出に続いて主催者の挨拶があって、貴賓の紹介後、吳副大統領の訓示や台電会長の挨拶、各機関の代表の祝辞等が述べられた。その間に鹿島建設中村社長からの祝文の読み上げ等々、すべてが予定通り進んだ後和気藹藹な雰囲気の中に式典が閉幕された。

この式典は参加者として日月潭計画施工当時の工事参加者が特別に悪劣な工事環境に臨み、身を賭して、全ての艱難辛苦に堪え、全世界の人々をしてこの大難工事の成功に矚目させた事実を再度認識し、その成功が台湾の経済と民生に及ぼした偉大な貢献を謳歌すべきである。又主力業者鹿島建設会社の功績は特に顕著に永く記念するに足る。

ちなみにこの工事は：(1) 古今未嘗有と恐らく絶後の雄大で困難な工事であった。何故なら工事現場は大変広大（武界から埔里、日月潭、車埕、門牌潭に跨る）で、それが又殆んど人跡未踏の原始林の中にあり、全然道がなかった。(2) 工事現場の衛生環境は特別に悪劣で、チフス、コレラ、マラリヤ、恙虫等の伝染病がはびこり、新来者は100%マラリヤに罹る。(3) 道が無いため、資材と機器運搬用に鉄道（二水から車埕間約50km）と日月潭周囲の電気鉄道（延べ約30km）を敷設せざるを得なかった。(4) 又工事用電源として北山坑水力発電所（2,100kW）を先に建設せざるを得なかった。(5) この工事はダムと発電所建設外に附帯として送電用に日月潭から台北と高雄両地に向けこの特高圧送電線路と必要なる一、二次変電所や二次送配電線路の建設をした。そのな工事現場は全島に跨り、その送電は恰かも人間の動脈の働きを果し、台湾の工業化の促進に

絶対的な推進力となった。(6) 着工当時は全台湾東西南北を含めて総使用電力は約50,000 kWのみで、急に大觀発電所の100,000^{kW}が注ぎこまれるので台電の高層部はこの大電力の消化に悩み、極力電気の使用を奨励した。

(7) 又この計画は多くの記録を残した。その主なものは：① 送電電圧は154,000Vで、当時日本の最高電圧11,000Vより遙かに高い。

② 発電所容量は当時日本の最大容量より数倍大きかった。③ 日月潭の容量145,000,000 m³と364mの落差は共に日本屈指であった。

④ 昭和6年、政府の担保でアメリカのモルガン銀行団からのUS\$2,250万ドルの借銀は当初の創業者であった。

⑤ この計画は当時としては規模が超大と至難であるに加えて、関東地方大震災、資金の困難と第一次世界大戦後の大不況等に遭って工事は一進一退し何回も停止と復工を繰り返して実に16年の歳月を費して終に夢が実現したのであった。

この工事計画は発電が唯一の目標であったが、月日の移り変りで、今や偉大な揚水発電のメリットが加わった外、観光(毎日平均観光客数は註1の如し)、灌漑(灌漑面積は約100,000^{ヘクタール})、生活用水の供給(直接人口約10,000)註2、工業用水の供給等々の価値が日に増し、台湾中部のみならず全台湾の経済に数え切れない程大なる貢献をもたしている。誠に日月潭の存在は今や台湾中部諸都市の経済の死活を扼する守護神であるといえる。

註1. 2013年度の^{毎日}平均観光客は12,040人、2014年1~7月の平均観光客は毎日16,382人

註2. 生活用水の直接使用人数は観光客と下流の各都市の使用人数を含まぬ。

註3. 漁獲量は毎年約44,000kgもあって一般の人には想像できない。

林寛祐

中興電工機械股份有限公司